

○議長（皆川鉄也君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

11番議員の一般質問を許します。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） 皆さんおはようございます。議席番号11番山本です。

通告に基づき、質問いたします。

ハタハタ館指定管理について。

町の観光振興施設の代名詞であるハタハタ館の経営状況は、長年経営苦境に喘いでいる中、さらに2年間、コロナ禍による影響で収支悪化で累積欠損金1億円に達し、ついに9,500万円の自己資本がマイナスとなりました。なぜそうになってしまうのか、その原因を知るべきと考え、質問いたします。

全国の潰れる第三セクターの実例は、役員には事業をしたことがない役員が就き、事業設計はコンサルタントに外注、資金調達については補助金だけでなく自治体から直接借り入れたり、もしくは損失が出た場合の補償を自治体にしてもらおう条件で銀行から融資を受けたりしてしまう。本来は経営責任を負うべきなのに、経営責任をもたない、あるいは事業をしたことのない人が行うことが大半です。そのため、他人に任せるにしても誰に任せたらいいのかということさえ分からない。損失が出ても、結局は自治体がどうにかしてくれると思っているため、まともな経営などできていないわけです。そもそも事業も資金も全てにおいて責任が不明確なわけです。最悪なのは、結局、もし失敗しても、再建計画もまた別のコンサルタントに依頼することです。そして潰してはいけない、潰すと大変だといった話で自治体がだらだらと救済策を講じ続けることです。こうした場合、第三セクターの失敗は、潰して終わりにならず、むしろ潰れかかってからの支援の方が高くなります。正に今の状態です。

議会としては今まで毎年経営状況を懸念しながらも、町集客の代名詞であるハタハタ館に対し、長年採算のとれていない経営にもかかわらず、町のシンボルである町の重要資産として廃業だけはさせたくない思いで、これまで施設のリニューアルの投資や、昨年は浄化槽、空調設備の更新など改修維持に数億円の資金投資を承認してきております。現環境での観光施設の運営は、ハタハタ館の職員の努力だけでは、入湯者の減少による入湯税相当額の指定管理料では運営管理が厳しいほか、この2年間のコロナ禍によって追い打ちをかけられ、来館者が減少し、経営はさらに厳しいものになるという考えから、定額補助との財政支援について決算特別委員会の附帯意見として提案していたところです。

しかし、残念ながら、先日、ハタハタ館の経営者の社長である町長、館長、アドバイザーの3人の方と教育産業建設委員会での経営説明会での報告は、財政支援による経営維持だけであり、今後の経営改善の取り組みの内容が全くない内容であるほか、財政支援に際して、他町村の支援額と比較して不満を漏らし、支援額が少ないというばかりでした。今また言うがままに支援しても、経営努力の行動、意思、改善の取り組みが伝わってこない会社では、運営に関して指定管理に不安があるため、財政支援の前にハタハタ館の運営に関して取締役がハタハタ館の運営にどの程度関わっているのか、どのような改善案をもって運営をしていくのかという考えを聞かないと、今後の運営計画に将来性が見えない不安があることから、取締役の開催回数、出席率、取締役からの経営状況の意見、見解など、取締役への支援や援助の有無、その内容、次年度以降の改善計画の内容、新取締役の募集等の意思など、町のシンボルである、町民が我が町の自慢できる施設として存続させるため、今一度、管理委託の状況を問うものです。

以上、答弁ください。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。

森田町長。

○町長（森田新一郎君） 山本議員のご質問にお答えいたします。

1点目の「取締役会の開催回数、出席率」については、最近の取締役会の出席状況をお答えします。

なお、取締役の人数は7名で、町内の会社役員や団体役員、放送事業者の関係者の方々が就任されております。

取締役会は、令和元年度においては3回開催され、第1回は6名、第2回は4名、第3回は7名全員が出席されております。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり2回開催され、第1回は6名、第2回は5名が出席されております。令和3年度は3回開催され、全ての取締役会で7名全員が参加されております。令和4年度はこれまで1回開催され、6名が出席されております。

なお、令和元年度以降における取締役会の出席率は87.3%となっております。

2点目の「取締役からの経営状況への意見、見解等」については、取締役会では、赤字解消のためのご提案や利用者目線に立ったご意見をいただいております。

具体的には、「仕入れ額削減のための漁協の活用」や「部門別売上目標の設定」、今では中止していますが、10回入浴されるとレストランで500円を利用できる「湯マイ

レージカード」の実施、リゾートしらかみでの車内販売の検討、宴会メニューへの要望等です。

3点目の「取締役への支援、援助の有無、その内容」については、ハタハタの里観光事業株式会社取締役は、私を含めて全ての役員が無報酬です。また、役員に対する優遇措置はありません。取締役は会社設立当時に、株式を多く所有いただいた方々から就任していただいたとお聞きしております。役員はそれぞれ正業をお持ちの方々ですが、仕事やプライベートを通じて八峰町を訪れる方に対して、ハタハタ館をご紹介いただいたり、ハタハタ館が実施する様々なキャンペーンなどへの協力をいただいております。

4点目の「次年度以降の改善計画の内容」については、令和2年3月に策定した経営改善計画を着実に実行するとともに、令和4年度の営業方針にもあります売上向上施策の推進を求めてまいります。

具体的には、今後の旅行形態は「小グループ」、「連泊」がキーワードとなっており、国や県、町の宿泊助成事業を活用し、地元企業と連携した宿泊プランの実施を予定しているほか、現在は旅行ツアーも以前に戻りつつありますので、ハタハタ館独自のお土産品をPR及び観光バスの立ち寄り昼食メニューの充実を図るよう求めてまいります。

なお、ウクライナ情勢による燃油価格や原材料価格の高騰など、会社の努力だけでは対応できないケースもありますので、町としても支援を検討してまいります。

5点目の「新取締役の募集等の意思」については、このようなご意見があった旨を説明しながら、取締役会で協議していただきたいと考えております。

併せて、私が代表取締役に就任し疑問に感じていたことは、常勤の取締役がおらず、責任の所在が不明瞭ということでもありますので、今後協議していただきたいと考えております。

また、地域おこし協力隊制度を活用し、地域活性化や経営に精通した人材を募集することも検討してまいります。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ハタハタ館の指定管理について、再質問ありませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） まあ予想したとおりの回答でありますけども、はじめにですね取締役、まあ町の名士と名だたる企業の代表になって、無報酬だから責任がないんだというぐあい聞こえるわけです。無報酬だから町の、町長に経営を全て任せ、私らはあまり物言わないというふうなことで、こういうふうな結果を招いてきたのではないかな

と。この年間、年間でない、累積1億円解消する方法、これを探るためにはですね、やはり取締役がしっかりしてハタハタ館の収支改善を図るといふような努力が必要ですし、そのための改善の意見、提案を必要だわけですよ。ところがそれが全く見えてこない。自らの役員の経営努力すらも見えてこないと。

で、今年の、どこだ、今年の決算報告に経営体制及び情報発信力の強化というふうな項目がありますけれども、国、県等の財政支援を求めているんですね。で、指定管理料の見直し、新型コロナの情勢に対応した財政支援の要望、これだけですよね。それ以外は昨年と全く変わってない経営計画です。このことが経営者としてやはり、地元をお願いするという方法もあるのではないかと。例えばですね、町民に頭を下げて、年に二、三回でもいいからハタハタ館に風呂に入ってきてもらいたい。地元の企業に小宴会の時も利用してもらいたいと。そういうふうなお願いすらしてこない。それでは町民は救済の方法もないですし、そういう、おらがハタハタ館のために何とかしてやろうという機運も生まれません。そういうことでいいんですか。その辺の意識、町長として、町長としてというか、まあ社長兼務なのでどちらでもいいんですが、とりあえずそこまでお願いします。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） まず、ここにはハタハタの里観光事業株式会社、社長は出席できません。しかるべき手続きをとらないと、そういう、今までは、1期目の時はそういうやり方できたんだらうなと思ってお話ししてきましたけど、ここでは私は町長ですので、町長としてお答えしたいというふうに思います。

まず、なぜこだけ累積赤字が膨らんできたか。その部分については、今始まった話ではない。基本的に、29期目の決算ですよ。30年近く続けてきた決算で、今、山本議員が質問されてるこの部分をなぜ今頃こういう質問されるのかなという部分が、私の町長としては第一の印象です。

今回の部分については3つに分けて考えなきゃいけません。1つは、漫然とした経営の仕方をしてきて赤字が膨らんできてあった。これがまず通常の経営、まあ経営の体質ですね、会社の体質。それと、今回のコロナ禍で営業努力ができない。ここの部分を分けて考えないといけない。いくら山本議員がおっしゃるような感じでハタハタ館利用してくださいよと、言えないでしょ。言えなかったでしょ、ここ2年間。その部分で思うような収入があげられなかったことが2つ目です。もう一つは、信じられないくらい

灯油代、今、山本議員のところでは感じてはるはずですよ。灯油代。それから、まあ電気料。そういう部分の、この3つを分けて考えなきゃいけない、そういうふうに思ってます。

私は1年目に、なぜか分かりませんが、いきなり1,500万の赤字の会社の社長になれって言われました。で、その年に1,600万の赤字出しました。その時に当時のハタハタの里観光事業株式会社の幹部が町長室に来て、このままでは駄目だから指定管理料を上げてほしいと。私は断りました。2年目も同じような形で2,000万円の赤字を出して、その時も、ここまでは駄目ですから何とかしてほしいと、断りました。何をしたかという、会社として漫然とした赤字経営体質のままでは、税金をつぎ込んでいっても湯水のように消えるだけだからです。そのケースを私は県にいた当時何度も目撃してきたから、まずハタハタの里観光事業株式会社が経営改善計画を作って身を切る改革をして、その部分なし得た上でないと、なかなか議会の方にも、はじめから指定管理料のやり方間違ってると思ってましたけど、その部分には申し上げられない、そういう気持ちの中でやってきて、当時の長くいた職員はみんな辞めてしまいました。辞めてしまったけど、残された人方でやっていこうというのが今の部分です。そして、山本議員はなかなか評価してくれませんが、33人体制でやっていた運営を26人体制で、退職した人方を不補充にするというふうな方法を、リストラしないで、あるいはお客さんがなかなか来なくて黙って立ってるような職員もいたので、券売機を導入して、その分の職員を減らしたりと、退職不補充でやったんですけど、そういう部分をやって、ようやく令和2年度の決算の中で、人件費だけで2,000万円の経費削減を成し遂げた。あとその部分は、令和2年の全協の際にもお話し、説明してありますけれども、1億8,000万という令和元年度の売上げさえ確保できれば、黒字になる見込みというふうなシミュレーションもお話ししたつもりです。で、その部分で今、1,300万円のこの指定管理料を、まあ、ね、今回の今の質問の中で令和3年9月の決算に対する附帯意見に、私はこれあげてくれって言ったなと思いましたよ。けども、それを藤里方式で、藤里方式は2分の1ですけど、うちの方は3分の1で抑えめにしながら全協の方に出しましたら、これは違うと。今みたいな、山本議員がおっしゃったような援護射撃の意見もなかった。ああ駄目なのかと。そうすればどうすればいいのかなと。まあそういう部分で今来ていますので、基本的に、やっぱりハタハタ館を何とかしなきゃいけないという部分は、そのコロナ禍が始まった時に議員と町の方とは意見一致したと思いますので、今の山本議員がお話しになってる部分からすれば、何となくハタハタの里観光事業株式会社は、こ

う倒産させてしまうのかな、そんな感じすらします。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） ハタハタ館を残したい。株式会社も潰したくないわけですよ。

そういう意味では町長と同じ考えですけども、そこに至る中身が悪すぎると。まあ今日は社長でなくて町長という立場だということですから、そういう話が議員からあったということで伝えてもらいたいと思うわけですけども、例えばですね、まあ先ほども言いましたが町民に対してのお願いやですね、この前、説明会の時はバスがただ遊んで月30万円もかかると。だったら迎えに走る。じいさん、ばあさんを迎えに走る。そういうことだってできるんじゃないのかなと。そういうふうな努力っていうもの。

それからですね、人を来させるために、別にコロナだから人が来ないわけじゃなくて、コロナだから一生懸命宿泊客が泊まってるじゃないですか。例えばあれが、まあ今回はいつも満員の状況なってるようですけども、例えばJTBとかですね、そういうところと提携するとか、そういうふうな企業努力っていうものが何にも感じられないですよ。

それで、まあ職員が削減しながら一人、二人、二役もやって頑張ってるってことは分かりますが、当の役員がそういうことではですね、私は経営の能力が全然足りないというふうに私は感じるわけです。

まあもう一つは、ハタハタ館をつくったあたり。ハタハタ館は海岸にあるので漁協という存在、まあハタハタ館の売りは魚だろうということのイメージでつくったはずだし、観光客もハタハタ館に行くと魚介類が食べられるというイメージで来てるはずなの。ところがですね、満足に魚介類の提供がないと、食材に。まあちょこちょこはありますよ。で、これだって、このコロナ禍で魚介類、最低の値段ですよ。ヒラメ、キロ300円。メバル、キロ500円。いまだかつてない値段です。こういうふうな値段の時に冷凍してストックしておいて、まあ時化の時に出すとかですね、そういうふうな漁協とハタハタ館、農協とハタハタ館、そういうふうな付き合い方っていうか連絡体系、そういうふうなものをやってればですね、食材の経費っていうのは非常にダンピングできるわけですね。そういうふうな努力も何にもない。

だから私は経営者として、名だたる有名経営者、大変忙しい人ばかりですよ。私は優しい人ですから、町長にも社長を退いてもらう。名だたる社長、組合長にも退いてもらう。経営者は別個に立ててもらう。そういうふうに私はした方が、町長としても肩の荷がおりて言いやすくなるんじゃないかなと思います。いかがですか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） ハタハタの里観光事業株式会社が経営努力を全くしてないというふうな認識はがっかりでした。

私来た時に、まず一番先に驚いたのは、売上げを増やせば会社は儲かるはずだと。私、まあいわゆる取締役で、一番のお得意様は大森建設さんです。当然やってくださいと。大宴会やってください。もうそういうお願いをします。あとは各取締役のところでも、まあJAはちょっと離れてるので使ってくれませんが、それ以外のところは皆使っています。それで、私も会うたびに何とか頼みますよと。そこの部分についてはやってきてますし、もう一つ驚いたのは、仕入れ担当者が2人いたんです。いわゆる公設市場の方から水産、いわゆるそっちの方からとってくる人と、それから漁協をやってくれる人、その人方の打ち合わせが何もしてなかった。それも直させました。仕入れ窓口は1カ所にしてくださいって。そういう話をして、あと食材のロス、これもレストランメニュー60以上もありました。メニューがある以上は、それに使う食材はストックしておかなきゃいけません。でも、売れるもの、売れないものもあるわけですよ。それも今20ぐらいいまで絞り込ませました。そういう部分は経営努力やってきてます。それと館長代わった時には、一番のお得意様である大森建設に行って、大森社長に、今度この人館長になりましたからよろしくというふうな形の挨拶にも行ってます。

確かにバスを利用した町民の皆さんへの送り迎えの部分については、今後検討してもらいますけれども、今使わないから。それも何で使えないかということとコロナ禍で宴会がないからですよ。宴会があれば、そちらの方で使ってるわけです。今、その部分が、今、全国の部分のその飲食業、ホテル業、みんなそこで苦しんでるんじゃないですか。その部分に営業努力が足りないとかってそういう形の議論したって、やっぱりおかしいと思いますよ。だからそこはそことして、先ほど言いましたように、営業努力に関する部分と、コロナ禍でやむを得ない部分、それから今のウクライナ情勢等でいろんな物価上がってますので、そういう部分と、資材高騰とか燃油高騰、こういう部分の3つ分けて考えないと、やっぱり議論がまとまらないと思うんです。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） まあ例えばですね、外部から経営者を募集して経営改善を仕切ってもらおうというふうなことがもし可能であればですね、私はそっちの方がより早い改善の道だなというふうに思うわけですよ。で、まあ今、今年度予算つけましたけども、

道の駅移転に関するコンサルで……

○町長（森田新一郎君） 整備構想。

○11番（山本優人君） 募集の件ありますけども、あれは経営まで入らないということですけども、道の駅をあそこの移転した場合、当然ハタハタ館のリニューアルも関わってくるわけですよ。そうすると、今現在の構想の中で改修計画が1億8,000万の内容がある。それと併せて、その道の駅の移転の際にまた追加もあろうとするとですね、約2億円相当の改修予定、こういうふうなことを控えたハタハタ館を十分機能してやらせることが現体制でできるのかなって、私、非常に疑問で不安です。で、さらにはですね、仮に年間1,000万円の利益を出したとしても、1億円の赤字には解消には10年かかりますよね。町長、10年町長やるんですか、責任持って。私は、まあそういった意味からですね、ハタハタ館の再生は、私は減資するべきだと。ゼロにしてしまうんです。そうするとマイナス500万円からスタートできる。で、1,000万円利益出れば配当できます。もちろん積み立てする方向で行くと思いますけども。やった結果が出て税金も入りますし、職員のボーナスも出せます。結果がいいわけ、よくなるわけですから。そのかわり、株主には責任を取ってもらおう。減資という形で出資した分を全額ゼロです。そういうふうな整理の仕方をした方がですね、より早く再生できるというふうに思うわけですよ。その辺は考えどうでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 1,000万の利益あがって1億の損失あれば10年かかる。私、10年町長やれません、それは無理です。それは引き継いでいく話になります。私が引き継いだようにです。

基本的に今必要なのは、町としてハタハタ館はなくしちゃいけない。それで町長としては、先ほども一番先に答弁いたしましたけれども、ハタハタの里観光事業株式会社に昔からいた人が私の意見に反して辞めていった人方がいる中で、それを通して経営改善計画を作って、それを実行に移して、要するに33人を26人、まあいわゆるいろんな人があるんですよ。施設担当辞めた時は、やったことない人が手分けして勉強して今やりますよ。そういう形の努力をして経営改善計画、まだ食材の部分の、それもなぜか1,500万円の赤字出た時から食材の原価が50%にしてあった。なぜそんなことしたんですか。ハタハタ館はそういう施設で、そこで赤字なっても入湯部分で黒字なるから、それでペイしてきたんだ。そういう会社って私はおかしいと思う。だから身を切る改革を

しなければ、再生への道の支援は町としてはできないという形を通してきた。だからその部分を、まず一つでも1,000万でもいい、黒字の、黒字体質にする。その部分の積み重ねが、10年かかろうが20年かかろうが、また1億円、9,500万円の資本金が元さ戻るわけですから、そういう部分のまず黒字体質の部分を作ることが先決で、それがしなければ税金投入っていうのはなかなか難しいっていうのは、私の1期目の2年間です。その3年目の部分で、その部分をやってくれたんだから、これは今のハタハタの里観光事業株式会社でハタハタ館の存続を、再生をやっていってもらいたい、そういう思いです。

いずれ一遍に解消するのは無理であります。そう簡単に、まあ一遍にお客さんが戻ってきてりゃあまた別ですけど、環境もまた変わりました。その成果まだ出てません。ウェスパ椿山が廃業なったことによって、この近辺101号の部分で昼飯食べるのはハタハタ館ですよ。今度そういう部分のお客さんも入ってくる可能性がある。それから、湯っこランドが廃止になって、湯っこランド行った人方が今、まあ議員も提案になりましたけど、そういう人方へのサービスをどうしていくのか。そういう部分でハタハタ館、あるいは白神温泉ホテルの入浴者を増やす可能性もある。そういう部分をやらせてみて、その上でやっぱりやんなきゃいけないし、ただ今必要なのは、コロナ禍の中でどうしようもない、企業努力ではどうしようもなく収入が減ってる部分、そこの部分で赤字になってるわけですから、そこの部分と、それからいろんな油の価格、それから電気料、そういう部分もやっぱり今、企業側の責任で出ないようなものがあって、私も今、これほかのあらゆる産業そうなんで、そこの部分何とかしなきゃいけないと思ってるんですけど、そういう形の部分、分けて、やっぱりハタハタの里観光事業株式会社の手で再生させてやりたいなというふうな思いがあります。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ありませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） 私だけではないと思いますけどもね、ハタハタ館そのものの存在っていうのは、私はですね、おらが八峰町にはこういうハタハタ館という立派な施設があって、風呂も料理も楽しめますというふうに自慢したいわけですよ。ほかのまちに行った時に。ところが現状はそうでないわけですね、町民が。隣のへなし温泉さに行くけども、ハタハタ館には行かないというふうな町民が多すぎる。それはなぜそうってしまったのかなという、まあ非常にこの10年間、20年間の蓄積だわけですけども。

ハタハタ館を残したいというのは町民の願いだと思うんですよ。ところが経営が盤石

でないとすればですね、別に株式会社、ハタハタ観光株式会社でなくてもいいわけです。4,000万も3,000万も補助するのであればですね、公募して別の会社にやってもらうという方法もあるわけです。そういうことを検討したことはないんでしょうか、町長。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） まず2つあるんですが、ハタハタ館にどうして町民が来ないのかと。来ない町民が多すぎる。そこの部分に関しては、なぜそういうふうに思われるのか不思議でならない。私、コロナ禍始まる前に毎年、要するに四十四、五回、宴会でハタハタ館。それから2年目の株主総会の時にいろんなことを言われて、年間、今、レストランには100回以上行ってますよ。だけどその部分で、四十四、五回の部分では、自分の町内会とか周りの町内会とかそういう人方も行ってきてます。いろんな様々な団体も行ってきてます。基本的に町民の人方がその宴会場の部分には来てきています。そこの部分を、本当に行かない町民が多すぎるっていう部分が、私はよく分かりません。それで私は、その四十四、五回行った部分で、料理の部分に関しては一度もまずいと思ったことがありません。私と一緒にいった町内会の皆さんも、みんなおいしいと食べてくれます。なのに、何か議会側の部分の一部ですけど、料理が悪いとかそういう話されるのがよく分からないんですね。まあそれが一つ。

それから、公募して別の会社。一番先に考えるのはそうですよ。だから2年間の部分で、なぜ私が頑なにハタハタの里観光事業株式会社が支援してくれって言った部分、2年で断ったか。それは、守るのはハタハタ館であって、町長として守るのはハタハタ館であって、ハタハタの里観光事業株式会社でないよという話をしてきたからなんです。そのハタハタの里観光事業株式会社がやれなければ、今議員おっしゃったように、やれる企業を公募して、半分以上の従業員が解雇されることになるんですけど、そういう部分もやることはできると思うんです。だけれども、その2年の部分で経営改善計画を作って、結果的に33人から26人まで絞り込んで、やる気を見せてきてますので、その部分で私は今のこの困難、いわゆるコロナ禍の部分の何とか乗り越えてもらえるためには、そうやって努力してくれたハタハタの里観光事業株式会社が乗り越えていくべきだというふうなそういう形で考えてます。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） 残したいと思いは同じだわけですよ。ハタハタ館を残したいわけですね。運営会社でなくて。そういう面では同じだわけですよ。ですから、私は早くに

ですね、公募すると変な会社が入ってきたりするので困るので、私は先だっても言いましたけども、例えば星野リゾートであれ、大江戸温泉物語であれ、あそこに経営委託というふうな方法だってあるんじゃないかな。ていうのは、そちらのプロは客を連れてくるわけですよ。まあJTBに行っても同じですよ。まあJTBに経営のアドバイスをもらうとか提携するとかですね、そういうふうな思い切った発想をするためには、先ほど町長の何だっけ、常勤の役員を検討したいというふうな話してましたけども、そういうふうなことと併せてですね、役員体制というふうな考えと外部委託というふうな、まあ外部委託というか別な会社に委託するような考え、2つの点についての考えをお聞きしたいと。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 山本議員はよく星野リゾートのことをおっしゃいますけれども、ハタハタ館のような施設をお願いに行く場合に、1,300万円の指定管理料で今いる職員を全員採用して委託してもらえませんかお願いに行くんですか。それは恥ずかしくて行けないですよ。だからどういうふうな形をお願いに行くのかっていう部分が非常に難しいってのは、それが一つです。

それから、常勤の取締役、これは必要だと思います。これないとですね、私、1日も勤務してませんから。状況は聞いてますよ。だけれども、1日中そこにおいて、従業員がどういう働き方をしてるのか、お客さんに関してどういう接待してるのか、いわゆるこう幹部の人から聞くだけの話で、私も昼飯食いに行った時に、私のこと社長だと思ってる人いませんで、それでいろんなことを、好きなことしゃべってる部分は聞いて、それを館長にお話しするんですけど、だけれども、いわゆるそっちの部分はやっぱり必要だと思いますけど、今、先ほどもお話ししたとおり、私の厳しい注文に経営改善計画を作って、ある程度スリムな形にやってくれたハタハタの里観光事業株式会社に、やっぱりチャレンジさせてあげたいんですよ。今いきなりそうやって身を切る改革をしてくれたのに、いきなりまた外から連れてきてっていうのは、町長としては非常に、今の部分ではうまくできないと思います。今やっぱり努力してくれた会社の部分、このコロナ禍の部分に関しての窮地を救うための支援をしてあげて、黒字決算を打てるような形でやって累積赤字を減らしていく、そういう部分の取り組みをさせていただければというふうな形で町長としては考えてます。

それと、今2年間全くやってなかったいろんなイベントも、今年はやるつもりでいる

と聞いてますので、そういう部分でも、議員の皆さんも、山本議員も機会があれば必ずハタハタ館のご利用をよろしくお願ひしたいと思ひます。私もあらゆる会合さそういう話をして、ハタハタ館の利用を大変なのでお願ひしますということをお話したいというふうにお願ひします。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ありませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） 私が思う外注、まあ外注でない、ほかの企業にやる場合ですね、私は相談の上、協議の上ですよ、まあ藤里等の委託料は4,000万、5,000万と、まあ……

○町長（森田新一郎君） 4,100万。

○11番（山本優人君） 聞いてますけども、別に5,000万でもいいわけですよ。ハタハタ館が間違いなく、これ以上負担しなくてもいい。これ以上負担しなくてもいいと。将来にわたって運営できる。まあ将来って、まあ何十年先のことではないですけども、安心して任せられるというふうな状況さえあれば4,000万でも5,000万でもいいわけです。ただそれが今のハタハタ館の運営体質では心配なので、私はこだけ物を言っております。

で、先ほど町長が常勤が必要だということであれば、常勤はちゃんと立ててですね、その人が本当に責任を持ってやると。ただし、現状の職員であるとすればですね、やっこと大して変わっていかないと思うわけで、そうすると、今仮に3,000万、4,000万を補助して、何年後にそれが黒字なるのか。まあ来年すぐなるのか、再来年なるのか、何年面倒みていけば本当に毎年黒字を出せるような体制にもっていけるのかと。いつまでも結局だらだらとやるのは駄目だという、まあこのペーパーにもあるわけですよ、皆さんに渡ってるとお願ひしますが、ですから、その辺のタイムリミット、期間、その辺の感じ、2つ提案しましたけども。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 今までだらだらと経営してきた部分に関しては、否めないところはあります。だから、赤字経営体質だったからスリム化にしたんです。ここ、先ほど渡された部分、斜め読みしかしてませんが、これは平成26年の局長通知ですからコロナ禍が始まる前ですよ。コロナ禍が始まって、これがいつ収まるのかって山本議員もおっしゃったじゃないですか。コロナ禍が始まって、人の流れが止まってしまって観光バスが来なくなって、もういわゆる収入源のほとんどが、それから町民も含めた酒、飲食が駄目っていう形の自粛傾向になって、それが今、全国でいろんなところで苦しんで

るんじゃないですか。それが収まって元に戻れば、今現在の部分はシミュレーションしたとおり黒字なりますよ。けども、今現在の赤字は、累積は1億なってますけど、個々に見れば1,500万、1,600万、2,000万、まあその次プラスで今回また1,400万って形になってますけど、もう2,000万あれば結果的にはそういう状況であっても黒字になってるんじゃないですか、実際問題として。けど、その部分は、ほかの市町村うらやしい、まあ本当に我々の入湯税相当額って仕組み自体が、これが平成6年に始まった頃からの仕組みで、でもそこから平成19年に観光施設として宿泊部門、宴会部門できて、そういうリニューアルしてるんじゃないですか。その部分の経費かかり増しになる部分、それから新源泉掘った後に経費かかり増しなる部分、それを一切見てないというのはこれはおかしいんじゃないですかっていうのが、まあ私、町長としては思ってることなので、そういう部分を会社の方でも納得していただけるような形の協議をしながら進めていって、議会の皆さんに提案させていただきたいというふうに思います。

いずれ、だらだらと赤字経営体質のまま来たわけじゃなくて、一年一年、長くいた人が辞めていくくらいの意見交換の違いを乗り越えてここまで来てますので、そういう形でご支援をよろしくお願ひしたいというふうに思います。

あと、常勤の役員の部分については、今その時期なのかどうか。今、誰が来たってと人の流れが元に戻らなければ収入上がらないですよ。だからそれが今なのかどうかの部分については、まあこれはハタハタの里観光事業株式会社において協議してもらいたいという話をしたいと思います。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ありませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） まあだらだらと経営してきたというのももちろんですが、これから仮に2,000万プラスしてもらえれば3,300万、補助金としては必要だというふうに聞こえたわけですが、これが何年で良しとするのか。もっと増やしていく必要が出てくるのか。その辺の見極めというものが必要だと思うわけですよ。結局、3,000万、4,000万補助してあって、毎年500万利益だ、300万利益出た喜んでもらっても困るわけですよ。私はそういうことではないんじゃないかなと。私、ですから本当にその必要な財源、補助金の財源がね、例えば3,300万やって、経営が上向いてきた時に3,300万が300万円でもいいんだというふうな状況になることが必要なわけで、それが会社として運営できていくという証なのではないかなと私は思うわけですよ。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 平常時であれば、今、山本議員がおっしゃった部分はそのとおりだと思います。何年まで経営を黒字化させる。まあこれシュミレーションすれば数字では出てくるんですが、今のコロナ禍が、いわゆる世界中で人の流れを止めてしまったこのコロナ禍がいつまで続くのか。売上げが、観光客、観光バスが今までのようないつもの日常に戻ってくるのはいつなのか。その部分の見込みがつかない限りは、いつまでっていうのは誰も言えないと思います。今、人の流れが止まれば、今、日本中の観光旅行、ホテル業、みんな苦しんでいますよ。だからその部分が戻った暁には、黒字なれるようなそういう形出せますけど、今、この部分でコロナ禍いつ終わるのか、来年終わるかもしれませんよ。新しく薬が、飲み薬ができて、重症化防止できる季節インフルのタミフルのような薬ができれば、これはただの病気の一つになりますから、一切の歯止めなくなりますからそれはできますけど、今のこの段階でそういうふうにはいつまでやれば黒字化するのかっていう部分の質問には、これは誰も答えられないと思います。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、時間が迫っておりますので。

○11番（山本優人君） いずれ最後に、ハタハタ館は存続させたい。施設は存続、潰すことはできないわけです。そのためには、最低限、役員の努力、これは営業活動ですよ、いわば。それを十分行ってですね、存続できるような体制づくりを早急に目指してもらいたいと思います。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） これで11番議員の一般質問を終了いたします。

次に、8番議員の一般質問を行います。時間も経過しておりますので、8番議員の質問が終わり次第、休憩をとりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。